令和７年度鶴見区運営方針

鶴　見　区　役　所
令和７年４月
（令和８年６月更新）

目　　次

柱１　つながる・支えあう

１－１　気にかける・つながる・支え合う地域づくり　P3～6

１－２　だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり　P7～8

柱２　備える

２－１　災害に強いまちづくり　P9～12

２－２　街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり　P13～15

柱３　育てる・まなぶ

３－１　安心して子育てできる環境づくり　P16～19

３－２　まなびを通じたつながりづくり　P20～22

３－３　学校教育の支援　P23～24

柱４　聴く・伝える

４－１　区政情報の発信及び区民ニーズの把握　P25～27

柱５　共に生きる

５－１　環境を守り自然と共生したまちづくり　P28～29

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱１　つながる・支えあう
	経営課題	１　だれもが自分らしく安心して共に暮らし続けられるまちづくり

施策１－１	方向性	気にかける・つながる・支え合う地域づくり
	内容	人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮し存在を認め合い、支え合うことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支え合う地域づくり」を進めます。

❶ 成果指標（中期）	① 区民アンケートで**「日常生活の中で『お元気ですか』や『何かお困りですか？』など住民同士の『声かけ』『見守り』『支え合い』が行われていると感じる」**と回答した区民の割合 ② 区民アンケートで**「地域活動協議会を知っている」**と回答した区民の割合 ③ 区民アンケートで**「運動や食生活など、健康に関する取組みを行っている」**と回答した区民の割合

※「②」の指標については、令和６年度運営方針から設定

❷ 目標・実績値

※前年度と異なる指標・値「下線」

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	① 40%以上 ② (未設定) ③ 80%以上	① 40%以上 ② (未設定) ③ 80%以上	① 40%以上 ② 66%以上 ③ 80%以上	① 45%以上 ② 66%以上 ③ 82%以上	― ―	① 60%以上 ② 69%以上 ③ 82%以上
実績	① 34.1% ② 58.9% ③ 83.2%	① 37.8% ② 56.4% ③ 81.6%	① 32.6% ② 65.0% ③ 82.0%	① 32.7% ② 72.5% ③ 89.6%	―	―

※「③」の令和９年度目標値について、令和７年度運営方針から「80%以上」から「82%以上」に上方修正

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標①については、目標値45%に対し実績値32.7%であり、3人のうち1人程度の認識状況が続いている。後述のとおり、つなげ隊に対する需要の高さや「あいまち」の継続希望状況を踏まえると、困りごとに対する「支え合い」の役割は果たせているところであるが、引続き、こうした頼るべきセーフティネットの存在を区民全般に認識していただくべく広く周知していく必要がある。
- 成果指標②については、目標値66%に対し実績値72.5%であった。前年度実績値から7.5ポイント上昇しており、今後も各地域による自律的な活動について様々な広報媒体、機会をとらえ積極的かつ戦略的に情報発信していく。
- 今後も関係機関や地域等とも十分連携したうえで、隣近所でのあいさつなどの声かけや見守りなどを促し、人と人とのつながりにおいて、お互いが配慮しお互いを認め合い、支えあうことで、地域で孤立せずその人らしい生活を送ることができるような、「気にかける・つながる・支えあう地域づくり」を進めていく。
- 成果指標③については、目標値82%に対し実績値89.6%であり、健康づくりに取り組む区民の割合は高い水準で推移している。健康づくりに取り組んでいない区民に、興味をひく区役所のイベントや情報発信の形式について問うたところ、情報収集型（54.4%）や体験参加型（28.1%）が高く、講義受講型（1.8%）は低かった。また、知りたい内容としては「運動」（52.6%）、「栄養・食生活」（45.6%）が高く、次いで「歯・口腔の健康」（31.6 %）であった。
- 今後も引き続き区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組みの機会の提供として各種イベントを開催するとともに、広報紙・ SNS 等を活用した情報発信を継続していく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組１－１－１ 【地域福祉力の向上】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 地域の相談窓口業務や関係機関との連携の充実
- ・地域福祉コーディネーター（つなげ隊）の配置
- ・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置

✓ 住民同士の助け合い活動の支援
- ・地域有償ボランティア活動(あいまち）の実施
- ・つなげ隊及びあいまち会員への研修開催
- ・つなげ隊及びあいまちの認知度の更なる向上を図るための情報発信

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

❺ 成果指標（単年度） （当年度取組みによるめざす成果）

- 区民アンケートで**「今後課題に直面した時は『つなげ隊』に相談したい」**と回答した区民の割合
- 区民アンケートで**「『あいまち』を知っている」**と回答した区民の割合
- あいまち会員の会員登録継続意向アンケートで**「今後も続けていきたい」**と回答した割合

	R05	R06	R07
目標	・(未設定) ・(未設定) ・60%以上	・80%以上 ・35%以上 ・60%以上	・80%以上 ・35%以上 ・80%以上
実績	・73.3% ・21.0% ・79.6%	・76.8% ・20.2% ・81.2%	・77.5% ・23.0% ・82.1%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 区民アンケートで「今後課題に直面した時は『つなげ隊』に相談したい」と回答した区民の割合は、目標値80%に対し実績値77.5%であり、頼るべきセーフティネットの存在として将来的に需要が見込まれる。
- 区民アンケートで「あいまちを知っている」と回答した区民の割合は、目標値35%に対し実績値23.0%であった。前年度実績値より2.8ポイント上昇しているものの、広く認知されていない状況と言わざるをえない。区広報紙に掲載を行うなど周知に努めてきたが、不十分であった。
- 「今後も続けていきたい」と回答したあいまち会員の割合は、82.1%であり、目標を達成することができた。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 地域の身近な相談窓口・地域に必要な助け合い活動をさらに定着させるため、つなげ隊について区広報紙に定期的に掲載し、その主な活動及び連絡先等の周知を行う等広報強化に努める。また、各地域においてネットワーク委員会等の活動と連携して地域福祉活動を行う中で各地域における認知度向上を図るとともに、各種研修や地域の集まりなどでの積極的な情報発信に努める。
- 引き続きあいまち会員が安心して依頼・活動できるよう、あいまちの委託先と連携しながら、地域の集まりなどであいまち活動について対面・双方向的に情報発信を行うなど、利用の促進に向けた取組みを進める。

単年度計画・目標・実績	具体的取組１－１－２ 【地域活動協議会の更なる活性化】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 地域の実情に応じたきめ細やかな支援
・まちづくりセンターと連携した支援の実施

✓ 地活協の役割・活動内容等の情報を、様々な広報媒体、機会をとらえ積極的かつ戦略的に情報発信
・地活協の役割・活動内容等を区役所より情報発信
・各地域が行う活動内容等の情報発信を区役所が側面支援

✓ <u>鶴見区町会加入促進アクションプランに基づく取組み</u>
<u>・集合住宅への働きかけの徹底</u>
<u>・「町会プロモーション」の徹底</u>
<u>・「次世代型の町会」のモデル導入と展開の支援</u>

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- **「地活協の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じる」**と評価した各地域活動協議会運営委員の割合
- 区民アンケートで**「地域活動協議会を知っている」**と回答した区民の割合

	R05	R06	R07
目標	・90%以上 ・(未設定)	・90%以上 ・66%以上	・90%以上 ・66%以上
実績	・82.7% ・56.4%	・76.1% ・65.0%	・93.5% ・72.5%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 「地活協の構成団体が、自分の地域に即した支援を受けることができていると感じる」と評価した各地域活動協議会運営委員の割合は、目標値90%に対し実績値93.5%であり目標を達成できた。前年度実績値より17.4ポイント上昇しており、まちづくりセンターと連携して各地域課題に即したきめ細やかな支援を継続して実施してきた成果があらわれたと考えられる。
- 区民アンケートで「地域活動協議会を知っている」と回答した区民の割合は、目標値66%に対し実績値72.5%であり、前年度実績値より7.5ポイント上昇した。各地域において継続的に活発な活動が展開されていることに加え、区においても区広報紙への紹介記事掲載・パンフレットの配布・まちづくりセンターを活用したSNSによる情報発信などにより地域活動協議会の周知に努めてきた成果が認知度の増加にあらわれたと考えられる。
- 「鶴見区町会加入促進アクションプラン」に基づき、区広報紙や大阪市くらしの便利帳を通じて、町会が行っている「まちの安全・安心、快適な暮らしを支える活動」など町会加入によるメリットの発信、転入者に対しての町会加入パンフレットの配布など、情報発信に努めた。また、「建築物事前公開制度」を活用し建築事業者への町会加入の働きかけを実施した。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 地活協による自律的な地域運営の促進に向け、引き続きまちづくりセンターと連携したきめ細やかな支援に取り組むとともに、地活協の役割・活動内容等の情報を、様々な広報媒体、機会をとらえ積極的かつ戦略的に情報発信していく。
- 地活協の中核的役割を担う町会の加入率が減少傾向にある中、地域で安全・安心に暮らすと同時に、地域活動に参画する市民が増えることを目的として、令和６年７月に策定した「鶴見区町会加入促進アクションプラン」に基づき、引き続き区や地域の現状を把握したうえで優先順位を決め、町会と協働して取り組んでいく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組１－１－３ 【健康増進意識の向上】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 区民の自主的な健康づくりを進めるための取組み
- ・食育フェスタの開催　１回
- ・健康に関する講演会の開催　１回
- ・ウォーキングカレンダーの発行
- ・健康展の開催　１回
- ・ウォーキング教室の開催　１回
- ・食育に関する調理実習の開催
- ・百歳体操などの地域・関係機関等による健康づくり活動の継続実施に向けた支援

✓ 「栄養・食生活」「運動」「たばこが与える体への影響」などの健康に役立つ情報発信
- ・広報紙（食育に係る特集号を含む）、ホームページ、SNS（フェイスブック、X(旧ツイッター)）、啓発チラシの配布（随時）
- ・がん検診・乳幼児健診など区が実施する保健福祉事業の際に啓発実施

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

イベント参加者へのアンケートで**「健康に関する取組みへのきっかけとなった」**と回答した区民の割合

※前年度と異なる指標・値「下線」

	R05	R06	R07
目標	70%以上	90%以上	95%以上
実績	94.4%	90.5%	96.5%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標については、目標値95%以上のところ、実績値は96.5%であり、目標値を上回る結果となった。
- 食育フェスタ＆健康展やウォーキング教室、調理実習などのイベントは、健康増進に向け取り組むきっかけとなるとともに、参加者の満足度も高かった。
- 上記イベントのほか、健康に役立つ情報（健康コラムや食育レシピ等）を広報紙やSNSなどを活用して発信するなど、ライフステージに応じた生活習慣の改善に向けた啓発を実施したことも、区民の健康増進意識の向上に貢献したと考えられる。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 区民の健康増進意識の向上を図るため、食生活の改善や運動など健康に関する取組みについて、今後も区民に興味を持ってもらい、実践してもらえる内容となるようにアンケート結果などを踏まえ、各種イベントの開催や広報紙・SNS等を活用した情報の発信を継続していく。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱１　つながる・支えあう
	経営課題	１　だれもが地域で安心して暮らせるまちづくり

施策１－２	方向性	だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり
	内容	支援を必要とするすべての人に必要な支援が行き届く地域社会の実現に向けて、生活の場である地域を基盤として、「だれでも・いつでも・なんでも言える相談支援体制づくり」をめざします。

❶ 成果指標（中期）	区民アンケートで**「地域で支援を必要としている人に必要な支援が行き届く地域社会になっていると感じる」**と回答した区民の割合

❷ 目標・実績値

※前年度と異なる指標・値「下線」

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	(未設定)	30%以上	36%以上	38%以上	—	40%以上
実績	35.8%	34.4%	31.2%	36.0%	—	—

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 目標値38%に対し実績値36.0%であった。前年度実績値より4.8ポイント上昇し、令和４年度以降30%代で推移してきている。福祉課題が一層複雑化・多様化・深刻化し、複合的な課題を抱えた人や世帯が多数存在する中で、相談や対応が行えるよう、引き続き「総合的な相談支援体制の充実事業の普及促進」「相談支援体制を支える人材の育成確保」「権利擁護支援体制の強化」に努め、見守り相談室を含めた相談支援体制の充実を図る。

単年度計画・目標・実績	具体的取組１－２－１ 【相談支援体制の充実】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 複合的な課題を抱えた要援護者などに対応するために、地域と専門職、専門職間のネットワークづくりを進め、相談支援体制の充実を図ります。
・総合的な支援調整の場（つながる場）の開催：通年

✓ 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
・認知症サポーター養成講座の開催支援及び情報発信
・「大阪市認知症アプリ」などを活用した認知症に関する正しい知識の普及・啓発

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- つながる場の参加者へのアンケートで**「困難事例に対し、『つながる場』において情報共有や支援の方向性が確認できたと思う」**と回答した割合
- **認知症サポーター養成講座受講者数**

	R05	R06	R07
目標	・（未設定） ・（未設定）	・80%以上 ・100人以上	・80%以上 ・120人以上
実績	・(未測定) ・168人	・88.8% ・167人	・85.7% ・110人

※前年度と異なる指標・値「下線」

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 総合的な相談支援体制の充実事業（つながる場）を１回開催し、参加者アンケートで「困難事例に対し、『つながる場』において情報共有や支援の方向性が確認できたと思う」と回答した参加者は、目標値80%のところ、実績値は85.7%であった。また、つながる場以外にも、地域ケア会議など各分野で多職種が連携し、情報共有や支援の方向性の確認ができている。
- 認知症サポーター養成講座受講者数は、目標値120人のところ実績値110人となり、目標値を下回る結果となったが、各地域等において必要な方が受講されたことで需要が落ち着いてきたことが原因であると考える。認知症に関する正しい知識と理解の普及促進を進めるべく、「大阪市認知症アプリ」や「わたしのケアノート」についても、区役所窓口にリーフレット等を配架し、相談者には案内を行うなど利用周知に努めた。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 複合的な課題を抱えた人に対し、専門家等（スーパーバイザー）の助言を活用しながら、各相談支援機関や地域住民、行政等が分野を超えて連携し、支援することができる総合的な相談支援体制の充実に向け、関係機関や職員に向け研修を行うとともに、事態が深刻化する前に相談してもらえるよう周知・啓発に努めていく。
- 地域で暮らす認知症の人や家族の困りごとの支援ニーズに対応できるよう、認知症サポーターの拡充を図ることとし、区民向けの認知症サポーター養成講座やステップアップ研修の開催等の取組みを進める。また、区役所をはじめ、関係機関窓口での周知や広報に努めていく。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱２　備える
	経営課題	２　安全なまちづくり

施策２－１	方向性	災害に強いまちづくり
	内容	今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努めます。

❶ 成果指標（中期）	区民アンケートで**「鶴見区で実施している取組み**（区民の防災意識の向上や地域防災力の強化に向けた支援など）**が、今後の災害に対する備えにつながっていると感じる」**と回答した区民の割合

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	(未設定)	70%以上	70%以上	70%以上	―	75%以上
実績	68.9%	64.4%	71.0%	68.6%	―	―

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は、目標値70%に対し実績値68.6%であり、前年度実績値より2.4ポイント下降した。これまでの取組みを引き続き実施するとともに、区防災計画等の取組みの一層の周知のほか、区災害対策機能の強化に向けた方策を検討したうえで、自助・共助・公助の視点を盛り込んだ各種取組みにより、今後想定される大規模な自然災害に対する備えとして、区民の防災意識の向上と、地域防災力の強化に向けた支援、区災害対策本部の機能強化に努める。

単年度計画・目標・実績	具体的取組２－１－１ 【防災意識の向上（自助）】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 区民の防災意識の向上を図るため、自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けた取組み
- ・出前講座の実施
- ・安全・安心フェスタの開催
- ・小学生・中学生・高校生を対象とした防災学習会の開催
- ・広報紙（防災に係る特集号を含む）、ホームページ、SNS（LINE、フェイスブック、X（旧ツイッター））での防災の取組みの発信
- ・転入者セットとして市民防災マニュアル、防災マップ、ハザードマップを配布
- ・区役所内の12地活協広報紙掲示コーナーに各避難所の紹介

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

区民アンケートで**「災害時の避難場所の確認や個人（家庭）での備蓄など、いざという時に備えている」**と回答した区民の割合

	R05	R06	R07
目標	80%以上	90%以上	90%以上
実績	75.6%	80.9%	87.2%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】
・「高校生を対象とした防災学習会」として、西淀川区と連携し、淀商業高等学校（西淀川区）と鶴見商業高等学校（鶴見区）の学生が津波発生時の対応等を考える「津波タッグ」を実施した。

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標については、目標値90%に対し実績値87.2%であり、前年度実績値より6.3ポイント上昇した。
- 「いざという時に備えている」と回答した区民の内訳は、「食料や飲み水の備蓄」62.7%、「家族と避難場所・避難経路の確認」37.7%、「家具の転倒防止」31.6%、「家族等と連絡手段・集合場所等の決定」28.0%、「家の内外の危険箇所のチェック」24.5%であったが、そのうち令和7年度から何らかの対策を始めたという回答の割合は6.6%であり、令和6年度の16.3%より9.7ポイント下降した。
- 令和７年度は、広報つるみへの防災記事の掲載、出前講座や防災講演会の実施、小学校・中学校・高校での防災学習会の実施、鶴見緑地公園内で「安全・安心フェスタ」の開催、区役所が実施する防災以外のイベント等でのチラシ配布など従前からの取組を着実に実施した。さらに、フェイスブックやX（旧ツイッター）のSNSを活用して震災に関する備えなど自助に関する周知を実施した。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 自助とその後の共助の重要性につながる意識向上に向けた取組みとして実施するイベント・出前講座・防災学習会等において、備蓄品の実物を展示しながら説明するなど取組内容を工夫するとともに、広報つるみへの防災記事の掲載やX（旧ツイッター）での周知等により区民の防災意識の向上を図る。
- 転入者には市民防災マニュアル等活用した啓発を行う。

単年度計画・目標・実績	具体的取組２－１－２ 【地域防災・減災力の向上（共助）】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 区民の共助に向けた防災意識の向上の取組み
- ・防災訓練、避難所開設運営訓練の実施　12地域
- ・災害時地域貢献協力事業所の情報を地域と共有し、協力事業所に訓練参加を呼びかける。
- ・個別避難計画の策定の継続的な実施（令和８年度末までに12地域策定）
- ・鶴見区内在住の防災士と連携し、地域防災力向上に向けた取組みの実施

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

地域が行う訓練の参加者へのアンケートで**「役立った」**と回答した区民の割合

	R05	R06	R07
目標	80%以上	90%以上	90%以上
実績	92.1%	96.3%	95.4%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】
・防災訓練、避難所開設運営訓練の実施　11地域（※１地域が大雨のため訓練中止）

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 各地域の防災訓練等を区内11地域で実施し、成果指標は実績値95.4%となり目標値90%を上回ったが、前年度実績値%より0.9ポイント下降した。
- 地域防災リーダーが中心となった訓練を、１地域で実施した。また、残りの11地域については、通常の防災訓練を実施した。
- 「災害時地域貢献協力事業所」一覧表を地域に配布し情報共有を行ったほか、地域の訓練参加についても呼びかけを行った（１地域）が、協力事業者の事情により実現には至らなかった。
- 個別避難計画の策定は、区内12地域すべてで策定を完了した。
- １地域で地域防災力向上アドバイザーを地域へ派遣し、備えや訓練の必要性を伝えた。
- １地域で地域防災マニュアル改訂の支援を行ったことで、該当地域の防災力向上に資することができた。
- 安全安心フェスタにおいて災害に対する備えの重要性を来場者に対して啓発するブースを設置し、防災士が中心となって運営する取組を実施した。地域で活動している防災士と地域での活動経験がない防災士をつなぐとともに、区役所も含めた交流を図る取組とすることができた。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き、区民の共助に向けた防災意識の向上のため、地域と区役所、関係機関、学校等が連携した防災訓練を行う。また、防災訓練等に参加したことのない方の参加促進や訓練内容の充実を図ることの助けとなるよう、地域防災力向上アドバイザーの活用事例など、各地域へ参考事例の提供を行う。
- 個別避難計画の策定については、当年度中に全12地域での策定が完了したため、対象を広げるなどして着実に取り組みを進めていく。
- 防災士と地域とのマッチングの仕組みを構築するため、引き続き区役所と防災士がつながる取組みからすすめていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組２－１－３ 【区災害対策機能の強化（公助）】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 発災に備え、避難所等への防災用資機材の確保・充実
・各避難所生活の改善に向けた備蓄物品の配備

✓ 区災害対策本部の整備・強化及び各地域の自主防災組織との連携
・職員用防災マニュアルの充実及び区災害対策本部職員への研修の実施
・地域の防災訓練へ防災担当職員の参加
・避難所担当職員への避難所開設に向けた研修の実施

✓ 情報発信の強化
・災害情報を得るための手段としての大阪防災アプリの周知をSNS（LINE、フェイスブック、X（旧ツイッター））や広報紙で行う
・区防災計画などの取組みについて広報紙への掲載、SNS（LINE、フェイスブック、X（旧ツイッター））での発信、イベント会場での周知

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度） （当年度取組みによるめざす成果）

- 区民アンケートで**「区防災計画などの取組みを知っている」**と回答した区民の割合
- **「職員向け防災マニュアルを理解できている」**と回答した区職員の割合

	R05	R06	R07
目標	・60%以上 ・100%	・60%以上 ・100%	・60%以上 ・100%
実績	・33.3% ・(未測定)	・34.8% ・75.5	・36.1% ・91.6%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】
・災害情報を得るための手段としての大阪防災アプリの周知をSNS（フェイスブック、X（旧ツイッター））や広報紙、チラシの配布により行った。
・区防災計画などの取組みについて広報紙への掲載、SNS（フェイスブック、X（旧ツイッター））での発信、イベント会場での周知を行った。

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 区民アンケートで「区防災計画などの取組みを知っている」と回答した区民の割合は、目標値60%に対し実績値36.1%となり、前年度実績値より1.3ポイント上昇した。
- 鶴見区地域防災計画などの取組みについては、「広報つるみ」やX（旧ツイッター）での広報、地域防災訓練や安全・安心フェスタ会場での周知、他課のイベントを活用した周知を行ったが、知っていると回答した区民の割合が目標値を下回る結果となったことから、周知方法を再考する必要がある。
- 「職員向け防災マニュアルを理解できている」と回答した区職員の割合については、実績値91.6%となり目標値100%を下回る結果となったことから、職員向けの研修内容を工夫する必要がある。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 区防災計画などの取組みに関する周知については、従前からの取組みに加えて、多くの人々の関心を引き付け興味を持っていただける工夫を行ったうえ、計画的に様々な媒体を活用するなど広く周知に努める。
- 鶴見区災害対策本部職員としての知識や防災意識を高めるために、鶴見区災害対策本部職員を対象にした職員用防災マニュアルに沿った研修を実施し、マニュアルを理解している職員の増加に努める。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱２　備える
	経営課題	２　安全なまちづくり

施策２－２	方向性	街頭犯罪等や交通事故の少ないまちづくり
	内容	鶴見区を安全なまちにするため、地域、関係機関、事業所等と連携し街頭犯罪の抑止や特殊詐欺被害の防止等に取り組みます。また、交通事故の減少や自転車マナーの向上をめざし、啓発活動に取り組みます。

❶ 成果指標（中期）	区民アンケートで**「安全で住みやすいまちと感じている」**と回答した区民の割合

※前年度と異なる指標・値「下線」

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上	91%以上	92%以上	―	92%以上
実績	90.3%	91.2%	92.8%	91.4%	―	―

※令和９年度目標値について、
・令和６年度運営方針から「90%以上」から「91%以上」に上方修正
・令和７年度運営方針から「91%以上」から「92%以上」に上方修正

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は、目標値92%に対し実績値が91.4%となり、4年連続で90%以上という高い値を保っている。
- 令和７年度の取組みについては、天候などにより未実施となったもの以外は実施できている。
- コロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたのと連動して、街頭犯罪、特殊詐欺の件数、自転車の事故割合が増加傾向にあったが、これまでの取組みによりコロナ禍前と比べて犯罪件数は減少している。今後も引き続き、地域、警察、関係機関、事業所と連携し、啓発活動に取り組んでいく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組２－２－１ 【地域・関係機関と連携した防犯対策】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 街頭犯罪発生件数の減少をめざした防犯意識の向上に係る取組み
- ・区が管理する防犯カメラの設置　24台
- ・区設置の既存の防犯カメラの維持管理　145台
- ・関係機関等が連携した区内防犯活動　12回
- ・防犯推進委員会議の実施　１回
- ・自転車の２重(ツー)ロック推進キャンペーン　12回
- ・ひったくり防止キャンペーン　12回

✓ 特殊詐欺認知件数の減少をめざした被害防止啓発に係る取組み
- ・青色防犯パトロール車を活用した注意喚起
- ・防災行政無線を活用した認知状況の情報提供や注意喚起
- ・SNS（LINE、フェイスブック、X（旧ツイッター））や広報紙を活用した被害防止啓発
- ・鶴見区住みます芸人を活用した特殊詐欺防止啓発動画の配信
- ・電柱等を活用した注意喚起シートの設置
- ・各種キャンペーン時での特殊詐欺防止啓発活動

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- 区民アンケートで**「区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっている」**と回答した区民の割合
- **街頭犯罪件数**

	R05	R06	R07
目標	・85%以上 ・前年比 ５%減	・85%以上 ・前年比 ５%減	・85%以上 ・前年比 ５%減
実績	・69.9% ・前年比 12.1%増	・71.3% ・前年比 1.7%増	・73.7% ・前年比 ５%減

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】
- ・関係機関等が連携した区内防犯活動　11回（※８月猛暑のため中止）
- ・区設置の既存の防犯カメラの維持管理　150台（※R6新規５台取替分追加）
- ・ひったくり防止キャンペーン　15回（※12地域及びイオンモール鶴見緑地で３回実施）

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 区民アンケートで「区で実施している防犯事業が鶴見区の犯罪抑止につながっている」と回答した区民の割合は、目標値85%に対し実績値73.7%であった。区民アンケートの自由記述欄では、街灯や防犯カメラの増設を求める声が多かった。
- 街頭犯罪件数は前年比5%減を目標とし、実績値は前年比５%減で目標を達成した。犯罪件数については、コロナ禍による日常生活の行動制限が解除されたことと連動しており、前年度まで増加傾向にあったが令和7年度は減少となった。なお、これまでの取組みにより、コロナ禍前と比べても犯罪件数は減少している。そうした中で、ひったくり防止カバー取付キャンペーンや特殊詐欺防止の自動録音機貸出、出前講座等各種啓発活動や街路防犯灯や防犯カメラの取替・設置を実施した。
- 特に、鶴見区の街頭犯罪の約4割を占める自転車盗難の発生状況は、令和７年は331件で前年度より10件減少している。引き続き取組みを進める必要がある。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 街頭犯罪については、増加傾向にある場所でのポスター掲示と青色防犯パトロール車での広報や警察と連携した啓発活動等を実施し、街頭犯罪件数の減少を図る。

単年度計画・目標・実績	具体的取組２－２－２ 【地域・関係機関と連携した交通安全対策】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 関係機関と連携した交通事故防止や自転車マナーの向上をめざした啓発活動に係る取組み
- ・交通安全教室（子育て層・園児）の実施
- ・自転車マナーアップキャンペーンの実施
- ・高齢者交通安全研修会の実施
- ・高校生への自転車マナーの啓発
- ・放置自転車追放啓発活動
- ・区内駐輪場マップの作成、配布
- ・自転車交通違反事例について広報紙で最新情報の掲載

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

・交通事故死傷者数における自転車事故の割合
・自転車事故死傷者数

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

	R05	R06	R07
目標	・30%以下 ・(未設定)	・30%以下 ・(未設定)	・30%以下 ・130人以下
実績	・39.8% ・156人	38.5% 129人	・39.6% ・125人

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 自転車事故については、啓発の効果もあってか、実数は前年度129人から125人に減少しているものの、割合については前年度の38.5%から39.6%と微増となっている。引き続き自転車事故の減少に向け、学校等の区内関係機関と連携し、自転車利用者に対する交通安全普及・啓発活動に取り組む必要がある。
- 放置自転車については、地域と連携したことにより減少している。特に放置自転車が多かったＪＲ西日本放出駅前では、地域と行政が連携し、関係局による平日撤去の強化や休日における放置自転車撤去啓発の実施など放置自転車の台数減少に努めた。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 自転車用ヘルメットの着用啓発や高校生の自転車マナー向上など自転車事故の減少を図る。
- 放置自転車追放の啓発キャンペーンを地域や関係局と連携しながら引き続き実施し、放置自転車の減少を図る。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱３　育てる・まなぶ
	経営課題	３　子育てやまなびを応援するまちづくり

施策３－１	方向性	安心して子育てできる環境づくり
	内容	地域の関係機関や関係団体と連携し、保護者やこどもが交流・情報交換できる場の設定や相談支援の充実、子育て等に関する情報発信の強化、また児童虐待防止に向け関係機関と連携を図り、支援や相談対応などを行います。 さらに、こどもの居場所の確保や学習支援など、安心して子育てできる環境づくりを進めます。

❶ 成果指標（中期）	区民アンケートで**「鶴見区は子育てしやすいまちだと感じている」**と回答した子育て世帯の区民の割合

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	—	90%以上
実績	87.2%	74.8%	88.3%	92.7%	—	—

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標は、目標値90%に対し実績値92.7%であり、前年度実績値より4.4ポイント上昇した。
- 令和5年5月にコロナ禍による日常生活の行動制限が解除された後の「愛Loveこどもフェスタ」や区内全地域での子育てサロンの再開など、子育て施策・取組が子育て世帯のニーズに応じたものとなっているように考えられる。
- 今後も引き続き、地域及び関係機関と連携し取組みを進める中で持続的なものとなるよう、PDCAサイクルを徹底するとともに、区民が必要としている子育て情報の発信など取組の周知を進めていくことを通して、安心して子育てできる環境づくりに努めていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－１－１ 【切れ目のない子育て施策の推進】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 関係機関等と連携した、子育て層が気軽につどい、交流できる場の提供
・「愛 Love こどもフェスタ」の開催　1回　　・「つるみっ子ルーム」の運営
・子育てサロン、つどいの広場等への支援

✓ 子育てに不安感や負担感を持っている保護者等に対する相談、支援の実施
・子育て講演会の開催　１回　　・主任児童委員、その他関係機関との定例的な情報共有
・つるみっ子ルームや子育てサロン等での保育士等による育児相談等の実施
・就学前こどもサポートネット事業　～つるみにこにこ訪問～　の実施
・ペアレントトレーニング連続講座の実施　　・区役所への来庁が困難な方に、「オンライン相談」の実施
・乳幼児健診会場での保育士等による子育て全般にかかる相談コーナーの設置
・助産師による母乳育児等専門相談の実施（乳幼児３か月児健診）

✓ 子育て関連情報の発信
・「子育てマップ」「愛 Love こどもニュース」「すくすくカレンダー」等の発行
・広報紙、ホームページ、SNS（LINE、X（旧ツイッター））等を活用した子育て情報の発信
・乳幼児健診での保育士等による子育て情報の発信

✓ 区内保育施設情報の発信や保育環境の充実
・幼稚園・保育所等情報フェアの開催　１回　　・子ども園ネットワーク事業の実施

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- 子育て支援事業の利用者へのアンケートで**「当該事業が役に立った」**と回答した割合
- 区民アンケートで**「子育てに関する相談窓口を知っている」**と回答した子育て世帯の区民の割合
- 区民アンケートで**「子育てに関する必要な情報が入手出来ていると感じている」**と回答した子育て世帯の区民の割合

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

	R05	R06	R07
目標	・85%以上 ・85%以上 ・75%以上	・90%以上 ・85%以上 ・75%以上	・95%以上 ・90%以上 ・75%以上
実績	・95.3% ・91.0% ・65.4%	・95.8% ・89.1% ・77.3%	・98.7% ・90.7% ・74.8%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 子育て支援事業の利用者へのアンケートで「当該事業が役に立った」と回答した割合は、目標値95%のところ実績値98.7%であり、目標値を上回った。
- 区民アンケートで「子育てに関する相談窓口を知っている」と回答した子育て世帯の区民の割合は、目標値90%に対し実績値90.7%であった。また、「子育てに関する必要な情報が入手出来ていると感じている」と回答した子育て世帯の区民の割合については、目標値75%に対し実績値74.8%であり、前年度実績値より2.5ポイント下降した。
- 目標が達成された理由については、再開された「愛Loveこどもフェスタ」や区内全地域での子育てサロンの再開など、子育て施策・取組が子育て世帯のニーズに応じたものとなっているように考えられる。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き、当年度の取組内容に記載の内容を進めていく。
- 今後も引き続き、地域及び関係機関と連携し取組みを進める中でPDCAを徹底するとともに取組みの周知も行っていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－１－２　【児童虐待防止対策】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 重大な児童虐待　ゼロの維持に向けた訪問・相談事業の実施
- ・保育士及びこども家庭センター職員（福祉職員）による家庭訪問等で子育てに関する助言や関係機関へのつなぎ等の支援
  （就学前こどもサポートネット事業　～つるみにこにこ訪問～）（再掲）
- ・ペアレントトレーニング連続講座（再掲）

（※ 重大な児童虐待とは、身体的虐待やネグレクト等により、死亡や後遺症が残る等、生命の危険にかかわる重傷事案）

✓ 児童虐待防止啓発
- ・各種イベント・事業開催時に、通告や相談を促す内容のチラシ・啓発グッズを配布
- ・広報紙（児童虐待防止に係る特集号を含む）、ホームページ、SNS（X（旧ツイッター））等での啓発
- ・児童虐待防止に関する講演会の開催　1回

✓ 関係機関と連携した状況に応じた支援・相談対応
- ・主任児童委員、その他関係機関との定例的な情報共有（再掲）
- ・主任児童委員はじめ、学校との個別案件に応じた連携実施

✓ 要保護児童の早期発見
- ・安全確認ができない未就園児等の全戸訪問　1回

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

・重大な児童虐待件数

	R05	R06	R07
目標	ゼロの維持	ゼロの維持	ゼロの維持
実績	ゼロ	ゼロ	ゼロ

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 就学前こどもサポートネット事業について、対象世帯（２歳、４歳児）938件に対しアンケートを実施し、478件の回答を得た。その回答内容をもとに抽出した要対応児童（全120件）への対応を実施（電話相談：79件、家庭訪問：0件、保健師によるフォロー中：41件）し、ニーズをもとに保護者の負担感の軽減に繋げた。アンケート未回答者460件についても、乳幼児健診や医療機関の受診状況、所属の有無等を確認し、所属のない世帯については家庭訪問を実施し、状況の把握は全件終了している。
- 児童虐待防止のため、講演会、拡大子育て支援連絡会はそれぞれ年１回開催し地域との連携強化に努め、要対協の実務者会議や個別ケース検討会議を通じても、連携共有を行っている。
- 安全確認ができない未就園児等の全戸訪問について、所属が無い等の調査対象者430件に対し、乳幼児健診や医療機関への受診、入管照会、他市への照会等で428件は目視確認ができた。関係機関で目視確認ができなかった２件についても家庭訪問を実施し、鶴見区内のすべての児童の安全確認が実施できた。今後も、虐待の早期発見に努め、必要に応じて児童の安全確認を実施していく必要がある。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き、鶴見区内で重大な児童虐待を発生させないよう関係機関と連携をとり、適切な保護者支援の実施、児童の安全確認と虐待の早期発見に努め、適切に対応をしていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－１－３　【こどもに寄りそう事業】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 普通教室で授業等が受けられない児童・生徒を対象に、別教室等で個々の児童・生徒の課題に即した学習指導・支援及び不登校児童・生徒に対する登校支援等の実施（「こどもの学習支援事業」）
・区内12小学校及び区内5中学校

✓ こどもサポート推進員がかかわる中学生のうち、学校には行けないが学習の遅れに不安を感じている生徒を対象に区役所会議室等で学習支援を実施

✓ こどもの居場所づくり等を実施している事業者・団体に向けた支援
・「こどもの居場所ネットワーク会議」の開催
・「こどもの居場所」に関心を持っている方へ開設に向けた情報の提供・支援
・「こどもの居場所」情報の発信

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

「対象児童・生徒が学習支援等により登校状況や学習面で効果が見られた」と回答した教職員の割合

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

	R05	R06	R07
目標	90%以上	90%以上	95%以上
実績	95.2%	96.7%	96.4%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標の目標値95%に対して実績値が96.4%となり、目標値を上回った。
- 普通教室で授業等が受けられない児童生徒や、登校支援が必要な児童生徒については、別室での学習支援等を受けることで、安心して別室登校や普通教室での授業を受けることができた。また、登校できない生徒については、こどもの居場所としての区役所会議室等において学習支援を行うことができ、登校にもつながった。こうした学習支援や登校支援が対象児童生徒の学習への意欲的な取り組みや進路選択の幅を広げることに寄与したと考える。
- 「こどもの居場所」は令和7年度は25か所開設されており、引き続き情報提供及び情報共有を行う。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き児童生徒への学習支援や不登校支援、教職員への学校運営支援に取り組み、登校できない場合についても学校外の居場所を活用し、効果的な取り組みとなるよう努めていく。
- 引き続き関係部署や地域等と連携し、「こどもの居場所」に関する情報発信を行う。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱３　育てる・まなぶ
	経営課題	３　子育てやまなびを応援するまちづくり

施策３－２	方向性	まなびを通じたつながりづくり
	内容	幅広い層に「まなびの場」を知ってもらうとともに、「まなび」を通じたつながりづくりを進めます。

❶ 成果指標（中期）

① 区民アンケートで**「まなびを通してつながりを感じている」**と回答した区民の割合
② 区民アンケートで**「人権尊重のまちづくりが進んでいる」**と回答した区民の割合

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	① 50%以上 ② 35%以上	① 68%以上 ② 42%以上	① 68%以上 ② 42%以上	① 68%以上 ② 42%以上	―	① 75%以上 ② 50%以上
実績	① 57.4% ② 27.8%	① 57.9% ② 29.9%	①50.4% ②39.7%	① 52.5% ② 35.3%	―	―

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標①については、目標値68%に対し実績値52．５％であり、前年度実績値より2.1ポイント上昇した。成果指標②については、目標値42%に対し実績値35.3%であり、前年度実績値より4.4ポイント下降した。
- 各地域での区民ボランティアが実施する普及啓発活動や区が実施する啓発事業等は様々なテーマや実施手法で行っているが、幅広い区民ニーズに対応していくためにはどうアプローチしていくのか、今後も継続的な課題として取り組んでいく必要がある。
- 社会情勢や区民のニーズを考慮しながら引き続き、さまざまな世代の区民の興味・関心や課題等に対応した情報や体験する場を、実施手法等について検討・工夫しながら、提供していくことで、区民一人ひとりの主体的な人権意識の向上やまなびに対する意欲に繋げていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－２－１　【生涯学習の推進】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 学習機会の提供と成果を生かす取組み
- ・生涯学習ルームフェスティバル、生涯学習一日体験
- ・家庭教育支援講座（家庭教育に関する講演会等のイベント）
- ・区民との協働企画（生涯学習セミナー、おもてなし茶会等）

✓ 新しい生活様式等に対応した、生涯学習機会の支援及び広報周知
- ・生涯学習ルーム事業の運営支援
- ・生涯学習ルームをはじめとする生涯学習活動の広報周知
- ・個人や社会教育関係団体等からの学習相談や情報提供

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- 各事業の参加者へのアンケートで**「取組みを通じて新たな出会いや気づきがあった」**と回答した割合（総事業平均）
- 各事業（定員設定を行っているもの）の**定員に対する申込参加者数**（総事業平均）

	R05	R06	R07
目標	・80%以上 ・80%以上	・87%以上 ・80%以上	・87%以上 ・80%以上
実績	・85.7% ・61.4%	・93.2% ・80.4%	・98.7% ・108%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】
・2/1に開催予定の生涯学習セミナー「大人のための学び舎つるみ」は第51回衆議院議員総選挙等に向けた選挙事務執行により会場使用が不可となったため中止した。

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 事業参加者のアンケートでの成果指標は、目標値87%に対し実績値が98.7%（総事業平均）であり、事業参加者の評価は高い数値を推移している。
- 参加率での成果指標は、目標値80%に対し実績値が108%（総事業平均）となった。（上記の事業が中止となったため、定員設定の事業は家庭教育支援講座のみ）
- 「大人のための学び舎つるみ」（生涯学習セミナー）は中止したが、各事業の企画の検討にあたっては、事業参加者のアンケートや他区での事業なども参考に興味を持ってもらえるような事業を実施したこともあり目標を達成できた。引き続き生涯学習推進員と連携しながら、多くの方が参加したくなるような、事業計画を検討していく必要がある。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 区民ニーズや社会情勢をくみ取ったテーマを選定し、さまざまな実施方法を区生涯学習推進員とも協議・検討しながら、より多くの人々の関心を引き付け興味を持っていただける事業計画を立案するとともに、さまざまな媒体を活用し、広報・周知を行う。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－２－２　【人権教育の推進】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 関係団体と連携した人権教育の機会の提供
- ・ヒューマンシアター（人権啓発に関するイベント）
- ・人権啓発推進セミナー（人権啓発に関する学習会）
- ・校下別人権学習会
- ・地域人材育成講座
- ・地域のおける人権学習の相談や情報提供
- ・小学校区や学校単位の団体の人権学習会活動の支援

✓ 様々な機会を活用した人権啓発の取組み
- ・区イベント等での啓発活動
- ・平和学習パネル展の実施

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

・ 各事業の参加者へのアンケートで**「人権に対する理解が深まった」「新たな気づきがあった」**と回答した割合(総事業平均)

・ 各事業（定員設定を行っているもの）の**定員に対する申込参加者数**（総事業平均）

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

	R05	R06	R07
目標	・80%以上 ・70%以上	・90%以上 ・70%以上	・90%以上 ・80%以上
実績	・93.6% ・95.9%	・98.7% ・82.4%	・95.4% ・115%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 事業参加者へのアンケートでの成果指標は目標値90%に対し実績値95.4%（総事業平均）であり、事業参加者の評価は高い数値を維持している。
- 参加率での成果指標は目標値80%に対し実績値115%（総事業平均）と、対象となる事業は共に定員を上回る参加者となった。
- 昨年度まで２つの団体と協力して、それぞれ別の２回の人権啓発推進セミナーを実施していたが、今年度は２つの団体と区役所が協力して１回の人権啓発推進セミナーを開催することで多くの方の参加につながった。今後も引き続き関係団体と連携し幅広いニーズに対応する事業計画が必要であり、事業ごとの定員の設定についても検討する必要がある。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き区民ニーズを意識しつつ、人権意識の啓発・向上につながっていく事業を企画するとともに、人権啓発推進員とも協調し、地域での身近な人権啓発活動にも注力する。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱３　育てる・まなぶ
	経営課題	３　子育てやまなびを応援するまちづくり

施策３－３	方向性	学校教育の支援
	内容	区役所が学校や地域、保護者のニーズや意向を把握し、効果的な学校支援を進めます。

❶ 成果指標（中期）	**「学校や保護者のニーズ、意向が教育行政に反映されていると思う」**と回答した校長・教頭の割合

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	90%以上	90%以上	90%以上	94%以上	―	94%以上
実績	100%	97.1%	97.1%	97.1%	―	―

※令和９年度目標値について、令和７年度運営方針から
「90%(≒31/34=91.2)以上」から
「94%(≒32/34=94.1)以上」に上方修正

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 学校の要望を受けて、教育活動サポート事業の制度設計の拡充（活用費目の追加）に取り組み、制度設計後の事業を活用いただいたことで、学校教育現場がよりよい授業を効果的に行えた。
- 成果指標(中期)は、目標値94%に対して実績値は97.1%となり、目標値を上回った。
- 成果指標(単年度)の実績値は97.1%であり、成果指標(中期)の実績値も安定的に高い値で推移していることから、引き続き教育行政におけるニア・イズ・ベターの観点より、区役所や地域、保護者が連携し、学校ニーズを反映した学校教育の支援の促進を図っていく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組３－３－１　【学校教育の支援】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ ニーズや意向を把握する各種取組み
・教育行政連絡会（学校と区役所による連絡調整・協議）の開催　＜小・中学校　１回以上＞
・学校協議会への参加　＜幼・小・中（18校園）　各学期１回ずつ＞
・校長会・教頭会への参画　＜概ね毎月１回＞

✓ 校長経営戦略支援予算を活用した小・中学校への支援
・教育活動サポート事業
（児童生徒の学力・体力の向上や教員の指導力向上等に資するため、外部講師を学校等へ招聘）
・民間事業者を活用した課外学習支援事業「個別指導つるみ塾」（中学校3校・小学校５校）

✓ 夢・未来創造事業（出前授業）の実施（小学校12校）
（小学校からの要請に基づき専門的な知見・ノウハウ等を有する個人・企業が無償で児童に対して授業を行う）

✓ 小・中学校が各種ボランティアやサポーター等募集する際の広報協力（学校からの依頼により適宜）

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

「区役所からの支援が学力・体力・情操教育等の向上につながったと思う」と回答した校長・教頭の割合

	R05	R06	R07
目標	90%以上	90%以上	94%以上
実績	100%	100%	97.1%

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標については、目標値94%のところ実績値が97.1%であり、目標を達成することができた。
- 児童生徒の学力・体力等や教員の指導力の向上等に資するための、外部講師による「教育活動サポート事業」、基礎学力の向上や学習習慣の定着を目的とした「民間事業者を活用した課外学習支援事業（つるみ塾）」、企業等が有する専門的な知見等を教材とする小学校への出前授業「夢・未来創造事業」など、各種事業の実施により、区役所の支援に対する校長・教頭の評価が安定して高い値につながり、学校教育の支援に寄与したと考えている。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 拡充した教育活動サポート事業について、児童生徒の情操教育の向上に資するため、積極的に活用いただくよう周知を図っていく。
- 引き続き、各種事業に取り組み、区役所や地域、保護者が連携し、学校ニーズを反映した学校教育の支援の促進を図っていく。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱４　聴く・伝える
	経営課題	４　まちづくりを支える広報・広聴の充実

施策４－１	方向性	区政情報の発信及び区民ニーズの把握
	内容	あらゆる世代に必要な情報をわかりやすく提供できるよう情報発信をおこなうとともに、区政会議等により多様な区民ニーズの把握に努めます。

❶ 成果指標（中期）	区民アンケートで**「鶴見区が実施する広報**（区広報紙、区ホームページ、SNS、区広報板など）**で、必要とする区政情報が必要なときに入手できている」**と回答した区民の割合

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	(未設定)	70%以上	72%以上	72%以上	―	75%以上
実績	71.3%	59.8%	71.1%	68.7%	―	―

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標については、目標値72%に対し実績値68.7%となり、前年度実績値より2.4ポイント下降した。当該指標について調査を始めた令和2年度から令和6年度までは令和5年度を除き70%台で推移してきた。令和7年度は前年度実績値より2.4ポイント下降しているものの、おおむね70%付近で推移しており、大阪・関西万博情報をはじめ区民の関心の高い記事を時宜に即して効果的に発信した結果であると考える。
- 今後も多様な区民ニーズの把握及び全世代に周知したい区政情報の発信に努め、区民が区政情報を必要なときに入手できるよう、区ホームページでの情報発信やLINEセグメント配信等を積極的に推進していく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組４－１－１　【区民が必要としている区政情報の発信】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ 各種広報媒体を活用した情報発信
・広報紙「広報つるみ」の発行及び全戸配布（毎月１日発行、12頁、発行部数：56,100部）
・ホームページ、SNS（フェイスブック、X（旧ツイッター））及び広報板（53基）による区政情報の発信

✓ <u>大阪市LINE公式アカウント　友だち登録者数増加に向けた取組み</u>
<u>・大阪市LINE公式アカウント広報チラシの配布（転入者や各種イベント参加者等向け）</u>

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

区民アンケートで**「区広報紙や区ホームページ、SNS、区広報板を見て、区政**（事業等の内容、イベントやお知らせ）**について関心が高まった」**と回答した区民の割合

	R05	R06	R07
目標	60%以上	63%以上	63%以上
実績	60.3%	59.7%	58.3%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標については、目標値63%に対し実績値58.3%であった。従来、概ね60%前後で推移してきたが、令和7年度は若干下方に乖離している。
- 毎月発行する区広報紙は、多くの方に手に取ってもらうために、表紙にイラストを配して目を引くデザインになるよう心がけた。また、見やすい紙面にするため、催しやお知らせ等の掲載情報を区分ごとに色分けするなど工夫した。さらに健診情報等を掲載した特集号や防災特集号、大阪・関西万博の情報などについては区民の関心が高く、駅・商業施設等に配架したものも数多く手に取られていることから、今後はより関心を深められるような情報の発信に努める。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 引き続き、各種広報媒体を活用した情報発信を行うとともに、ニーズやタイミングを考慮したうえで、時宜に即した効果的な情報発信により関心を深められるよう努めていく。
- 広報のニーズを把握するため、令和7年度の試行実施に引き続き、大阪市行政オンラインシステムを用いた広報紙の「読者アンケート」を実施する。

単年度計画・目標・実績	具体的取組４－１－２　【多様な区民ニーズの把握】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ ニーズや意向を把握する各種取組み
- ・区政会議の開催
- ・区民アンケートの実施
- ・区長と区民の意見交換会

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

「区政会議（各部会）において、区役所や委員との間で活発な意見交換がなされている」と回答した区政会議委員の割合

	R05	R06	R07
目標	(未設定)	(未設定)	85%以上
実績	81.8%	77.8%	95.2%

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 成果指標については、実績値が95.2%となり目標値85%を上回ったが、委員全体から幅広く意見を聞きたいとの声も寄せられており、区政会議における議論の前提となる知識を補完できるよう勉強会を継続実施し、全体会・部会において委員が意見を出しやすい環境づくりに努める。
- 区民アンケート調査については、督促状を出すなど回収率確保に向けた取組を継続した結果、第１回・第２回ともに58%前後の回収率となり、３年連続で50%台を維持している。（令和４年度第１回47.5%、第２回44.8%➡令和５年度第１回57.8%、第２回60.4%➡令和６年度第１回54.8%、第２回54.6%➡令和７年度第１回57.8%、第２回58.0%）。
- 「区長と区民の意見交換会」では、茨田南小学校5年生が食品ロス削減に向けて考えた「理想のスーパー」を発表し、鶴見南小学校6年生が広島での学びを踏まえた平和学習の成果を発表したうえで、区長より講評を行った。区役所が日頃把握しにくい、児童の視点による問題意識や学校生活の実感に基づく意見を直接聴く機会となり、区政運営・施策検討に資する課題の把握や検討材料の収集につながった。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 区政会議については、議論の前提となる知識を補完できるような機会を継続的に設け、さらに実効性のある会議となるよう、区政会議委員を対象とした勉強会や意見交換会も実施し、活発な意見交換に繋げていく。
- 区民アンケート調査については、アンケート配付時や督促時にアンケートの意義を明示して提出を促し回収率の向上に努めることで質の高い調査にしていくとともに、職員の社会調査や統計学に係る知見を深めることに努める。
- 「区長と区民の意見交換会」については、くらしやまちづくり等に直結する行政を身近に感じ考えていただく機会として、引き続き実施していく。

中期計画・目標・実績

体系	将来ビジョン	柱５　共に生きる
	経営課題	５　環境にやさしいまちづくり

施策５－１	方向性	環境を守り自然と共生したまちづくり
	内容	2030年までを目途とする持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、SDGsの区民への浸透を図るなど、SDGsにかかる取組みを進めていきます。

❶ 成果指標（中期）

- 区民アンケートで**「日頃から意識してSDGsに取組んでいる」**と回答した区民の割合

❷ 目標・実績値

	（R04）	R05	R06	R07	R08	R09
目標	(未設定)	73%以上	73%以上	73%以上	―	80%以上
実績	71.0%	69.8%	62.1%	66.8%	―	―

❸ 当年度までの評価結果及び今後の方向性

- 成果指標については、目標値73%に対し実績値66.8%となり、前年度実績値より4.7ポイント上昇した。
- これまでからの花と緑豊かな環境づくりや環境についての学習機会と共に、広報を通してSDGs等への区民の理解を図ることに努めてきたが、特に広報では日常生活に身近な取組みもSDGsにつながるものであることの周知を徹底し、意識や取組みの定着を図る必要がある。また、こうした取組みを通して環境を守り自然と共生したまちづくりを進めていく必要がある。
- 令和6年度末に本市区長会の取組みとして区ごとの特性・実情と親和性の高いSDGsゴールを取り上げることとされたのをふまえ、当区では「11　住み続けられるまちづくりを」を選定しており、区で実施する各種事業がゴールの達成につながる取組みであることを周知・啓発していく。

単年度計画・目標・実績	具体的取組５－１－１　【SDGsの推進】

❹ 当年度の取組内容（予定）

✓ SDGｓの推進
- ・鶴見区小学生SDGｓポスターコンクールの実施
- ・事業者等と連携した普及啓発（大阪信愛学院大学「出張型まちの保健室」、イオンモール鶴見緑地「SDGsに係るイベント」）
- ・各種イベント時での啓発（啓発パネルの設置など）
- ・広報紙（SDGsに係る特集号を含む）、ホームページ等での啓発
- ・2025大阪・関西万博における大阪ウィークコアイベントへの参加(R06年度SDGｓポスターコンクール優秀作品の出展)

✓ 花と緑豊かな環境の推進
- ・花の種・球根配布事業
- ・種から育てる地域の花づくり活動

✓ 環境についてのまなび
- ・環境局と連携した環境講座の実施

※前年度運営方針と異なる箇所「下線」

❺ 成果指標（単年度）（当年度取組みによるめざす成果）

- 区民アンケートで**「SDGｓを知っていた」**と回答した区民の割合
- 区民アンケートで**「鶴見区が花や緑あふれるまちと感じている」**と回答した区民の割合

※前年度運営方針と異なる指標・目標「下線」

	R05	R06	R07
目標	・60%以上 ・85%以上	・65%以上 ・85%以上	・70%以上 ・85%以上
実績	・66.6% ・80.9%	・65.9% ・80.0%	・65.5% ・78.2%

❻ 当年度の取組内容（実績）

【❹（予定）と異なる内容のみ記載】

❼ 当年度の評価結果（定性含む）

- 区民アンケートで「SDGｓを知っていた」と回答した区民の割合については、目標値70%に対し実績値65.5%であり、多少の増減はあるが60%代で推移している。特に70代以降の認知度については、当区に限らず全市的に低い傾向が見られることから、日常の生活行動のすべてがSDGsに繋がっていることや、区の事業とSDGsの関連性を周知・啓発していく必要がある。
- 「環境についてのまなび」は当初予定していた取組みを全て実施することができた。小学生を対象に実施する「SDGsポスターコンクール」については前年度の参加者数を下回ったが、大阪・関西万博「大阪ウィーク～秋の陣～」において令和６年度の優秀作品の展示を行い、取組みを通してSDGsへの関心を高め、ひいては大阪・関西万博への関心をも高めることに貢献した。
- 区民アンケートで「鶴見区が花や緑あふれるまちと感じている」と回答した区民の割合については、目標値85%に対し実績値78.2%であった。
- 区民が花や緑に触れる機会の創出として種花ボランティアによる種花事業を全12地域の参加で実施していたが、コロナ禍による事業中止、ボランティア高齢化による作業労力の負担増大等により、参加地域が6地域まで減少してきたことを踏まえ、これまで暑い時期の水やりの負担軽減を図るための自動散水装置等の設置やボランティア参加促進の発信を行ってきている。こうした取組みにより、ボランティアの新規参加があり、ボランティア同士のコミュニケーションも増えている。今後も、運営状況を踏まえ持続的な取組みとなるよう、改善を進めていく必要がある。多くの方に花や緑あふれるまちと感じていただくためには一朝一夕で成果をあげることは困難であり、区事業のみならず関係局等との協働が欠かせないことから、既存事業の改善を図ることに重点を置きつつ、関係局等とも連携しながら持続的な取組みを行っていく必要がある。
- 花の種・球根配布事業については、SNS等も活用して募集し、多くの方から応募があった。

❽ 次年度の取組みの方向性

- 花や緑あふれるまちであると感じられるよう、引き続き区民の方が花や緑に触れる機会の創出を行うとともに、新たな人材の発掘を進めるため、花の種・球根配布事業や種花ボランティアの募集について積極的に広報（区広報紙や区ホームページへの掲載及びポスターの作成等）を行う。種花ボランティアを対象に水やりの負担軽減の取組みの検証はじめ、活動を充実させるための意見交換を行うことを通して、必要な改善・対策を講じていくなどにより、種花事業が持続可能なものとなるよう努める。
- SDGｓの推進について、区ごとの特性・実情と親和性の高いSDGsゴールとして「11　住み続けられるまちづくりを」を選定し、区で実施する各種事業がゴールの達成につながる取組みであることを周知・啓発していく。加えて、広報紙等で日常の生活行動がSDGｓに繋がっていることを紹介し、より身近に感じられるよう意識づけを行う。
- 引き続き「SDGｓポスターコンクール」や環境局と連携した環境学習講座を実施する。